

第5回 あしや市民活動フェスタ

◆ 基調講演 講師：三宅 正弘氏

(武庫川女子大学生活環境学部 准教授)

『芦屋川を世界遺産に！市民の知恵が文化を創り未来へ誘う』

◆ ワークショップ

『基調講演を受けて、みんなで語り合おう!!』

「各グループ発表」 & 「講評」



平成24年11月17日(土)

会場：あしや市民活動センター
時間：10:00～16:00

基調講演 「芦屋川を世界遺産に！」

三宅正弘氏（武庫川女子大学准教授）

この夏、六本木の新国際美術館の記念イベントにて芦屋川からスタートした「具体美術」¹という展覧会が開催された。これは大変興味深いことであり、芦屋川の空間を使って行われた野外美術展が東京で展示されており、国内だけではなく、世界的にも芦屋川に対する注目度の高さを窺わせている。さらに、作家の村上春樹がノーベル賞候補となっているが、彼は生まれ育ったこの芦屋、そして芦屋川について様々な作品を残している。このような状況を鑑み、芦屋川が世界遺産にあたいするのではという内容に関して話をしていきたい。

実は、日本における川の景観というものは、どちらかというと邪魔者扱いされてきた。例えば、神戸でも大阪でも都市が川に浸からないように街から遠いところに川を付け替えている。しかし、芦屋川という空間が、その例外であり、非常にめずらしい存在だと思う。

私は国土交通省の河川関連の委員をしたときも、芦屋川を見本として議論していた。芦屋市の市役所も市民センターも全て川に面しており、大変珍しい。そして、日本での川作りにおいては、他でみられることの少ない、川に背を向けるのではなく、川に顔を向けようとする非常に珍しい場所である。

ヨーロッパの都市では、その中心に教会や市役所等の公共施設が集まり、その建物で取り囲まれた広場がみんなが集まれる空間となり、これがヨーロッパ都市の特徴である。それに対して、日本の空間では、そのようなみんなが集まれる場所がなかなかないと言われている。しかし、芦屋市民の立場で考えると、市民センターや市役所等のある芦屋川が、みんなが集まれる空間となっている。景観的に公共施設があるということだけではなく、市民の広場として考えることも大切なことである。

また、芦屋川の特徴として、ヨーロッパと同じように、川に沿って都市的な建物が建っており、特にセーヌ川に似ていると私は感じている。市民センターは業平橋、警察署は公光橋、開森橋にはフランク・ロイド・ライトの山邑邸があるというように橋と建物がセットであり、建てる時に必ず橋の景観を意識した上でうまく設計がされているということである。一度は、川沿いの松並木が減らされたが、これらの建物ができ、そのような名建築が残るという点においても、芦屋川は本当に貴重な川であると言える。

これらのハードの面の他に、文化や名前等のソフトな面においても、芦屋川は非常に興味深い点が多い。例えば、月若や業平、公光等は、能楽にまつわるネーミングであり、一番下の鶴塚橋も頼政という能楽に出てくるものからネーミングされている。このような文学にまつわる名前が並んでいるという点において、ネーミングは街づくりにおいても重要だと感じている。村上春樹や谷崎潤一郎を含めた多くの作家が芦屋、そして芦屋川に関わる作品を残しているが、市民と川とのふれあいを通して、川と建物、川と文学等、芦屋川は文化を今でも作り続けている素晴らしいものと言える。

その他に、川沿いや川近くのレストランでミシュランの星の数は芦屋川が日本で最も多い

¹ 具体美術館（具体）は、1954年、関西の先駆者、吉原治良をリーダーとする阪神地域の若い美術家による美術グループである。「われわれの精神が自由であるという証を具体的に提示したい」という思いが名称に込められている。「これまでになったものを作れ」という吉原の指示の下、奇想天外な発想でユニークな作品を多く生み出し、海外で高い評価を受けている。

地区の一つなるのではないのでしょうか。また、都市的な空間がある一方で土筆（つくし）狩りやほたるの名所であるといった様々な表情を有する。

これまで芦屋川のことばかり触れてきたが、芦屋にあるもう一つの川として宮川のことにも少し触れておきたい。宮川は橋ごとにお地蔵さんがあり、生活感のある橋も多く、橋の間隔も短い。このような異なる橋を有する芦屋という街は、打出村と芦屋村がくっついてできており、二つの川の流域である。よって、宮川も芦屋川と同様に、芦屋を考える上で非常に大切な視点だと私は考えている。

最後の整理に入る前に、私の子供の頃の遊びについて述べていきたい。私たち芦屋で生まれ育つと必ずやる遊びがあり、1つは駄菓子屋さんで買ったサイダーにジュースの粉末を入れて、その噴き出す泡を最後までくわえたら一人前というものであった。その他に、芦屋川の下流からほとんど水がなくなり、その水がどこから地下にくぐっているのかというものであった。これに似た場面は村上春樹の小説にもあり、自分のことをあまり書かない村上春樹が、芦屋の子供たちの感覚をそのまま作品にしており、余程印象に残っていたのではないかと考えると非常に感慨深い。

また、釣りに関する思い出も大きい。今では考えにくいことであるが、芦屋川で釣りをするためにウジ虫を買い、竹を持って出かけていた。少し前までは、たくさんの方が芦屋川で釣りをしており、大人が鰻を取っているのを見て大人になったらやりたいなど思ったこともある。芦屋川は非常に都市的な景観として素晴らしいが、その一方で本当に自然の川であり、市民活動等のおかげで魚も多く感じる。

魚以外では、住宅街の側道にある石垣の岩と岩の間でよくカニ釣りをしたが、その岩、石に関連させて芦屋の街の色と石に関しても述べていきたい。芦屋は、街と山が同じ色をしており、山と同じ石で街が築かれている。谷崎潤一郎と村上春樹はこの街を白いと書いているが、岩の多いロックガーデンの街並みを見ると特に顕著である。実際にはピンク色に近い色をしているが、街全体も白く、明るく感じる事が分かる。この六甲山麓で採れる石は白く、緑との組み合わせも良く、また、石垣は動植物等の生態学的にも大変良いこととされている。今後は、色をイメージとした街づくりを検討した上で、公園や様々な施設で利用していくことが大切だと考えている。現状として、何らかの形で石に関わる世界遺産が多いことも念頭に置く必要がある。

世界遺産というものは、観光やビジネスだけでなく、人々の交流の意味合いもあると私は考えている。多くの資源のある芦屋は国際交流も盛んなところであり、石を含め、その他の資源や市民同士の人々の繋がり等を用いて、今後は、継続して芦屋、そして芦屋川で育まれた知恵を世界に伝えていきたい。

あしや市民活動フェスタ小グループ討論まとめ

グループA

ファシリテーター：森（芦屋ボランティア連絡会） 記録：大西（芦屋高校）

参加者：吉川・矢野・多田（ともしびマジック）・大永（高浜町自治会）

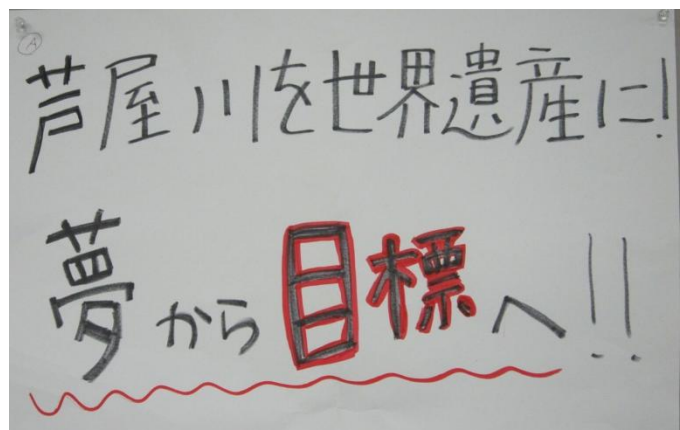
大脇（さんぴいす）・渡辺（いきいき健康講座）・向（国際交流協会）

川村（芦屋高校）

「芦屋川を世界遺産に！」夢から目標へ!!

【意見】

- ・ 芦屋川だけではなく、住吉川や夙川も含めたエリアで世界遺産を目指す
- ・ 川の横は人が歩いたり交流できるような都市計画をしてほしい
- ・ 川の水もっと増やす（川には水の流れが必要）
- ・ 防災の視点と生態系を守る視点、どちらも必要だが結果が同じになることはない
- ・ 津波が来たときのことも考えて、インフラの整備も必要
- ・ これをきっかけに、みんなでもっと勉強をしていく必要がある
- ・ 建物や景色も含めて芦屋川を考える
- ・ 昔に戻すというのではなく、現在の生活にあった環境整備を行う
- ・ 自然と人が共生する場所
- ・ 自然遺産ではなく、公園や景観を整備して文化遺産を目指す
- ・ 市民活動センターも芦屋川沿いに移転するが、ハードではなく、ソフト面の充実を目指す。サービスや利用者の目線に立ち「心に残る」施設になってほしい



【ファシリテーター講評】

私達のグループは男性が多く、日ごろから芦屋市の活性化やさまざまな問題を考えていらっしゃるのがよくわかり、活発な議論となりました。

皆さん、そのご意見の発表の場がないのが、残念とのことでしたので今回のような、グループディスカッションはとても良い企画との思いを強くしました。

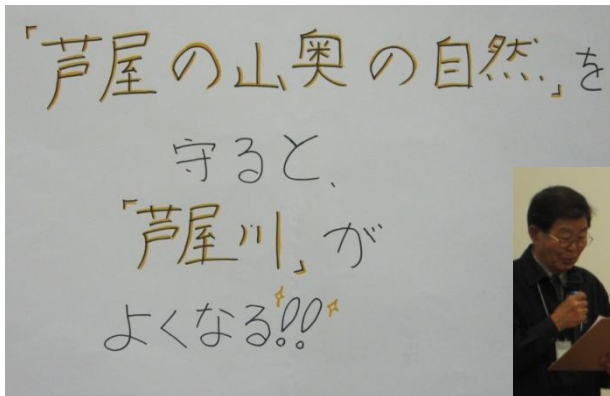
グループB

ファシリテーター：菅沼（あしやNPOセンター） 記録：福島（NPO法人 ワールドピース）
参加者：井上（ ）・村上（芦屋森の会 2001）・岩浅（打出小槌町自治会）
西田（芦屋市体育協会）・福島（芦屋市市民参画課）有馬（芦屋高校）

「芦屋の山奥の自然」を守ると「芦屋川がよくなる!!」

【意見】

- ・ 芦屋川の恋人は芦屋の山奥
- ・ 四季折々の風景があり、とても四季を感じることができる
- ・ みんなが自然とゴミを拾っているから芦屋川にはゴミが落ちていない
- ・ 夙川にはきれいな松がたくさん残っているが、芦屋は松を切ってしまった
もう少し植物に対しても意識を高めてほしい
- ・ 芦屋川をきれいにしていくためには森を守っていくことが必要
- ・ 芦屋川をみんなで育てていくという意識をもって大切に考えてほしい
- ・ 自然を大切にする意識をもっと市民全体が持つべき
- ・ 市民の知恵でさくらまつりも盛り上げている
- ・ 桜も年老いたものしかないので、もっと新しい桜を植えてほしい。
- ・ 川をコンクリートで固めないでほしい
- ・ 市民に広く情報発信をして活動をしていくべき



【ファシリテーター講評】

世代や分野を超えたさまざまな人との話し合いは、自然を残しながら、豊かさを感じられる暮らしのあり方を改めて考える機会となりました。市内中心にある芦屋川を守り、自然・環境を壊さないまちづくりを長年進めてきた同流域の景観が今年4月、「芦屋市文化財」に指定されました。こうした自然との共生を目指す文化財は、自然・環境の保護のみならず、持続可能な地域発展との両立が求められます。休憩を含めて約2時間の内容から、参加者たちの実体験から見えてくるものに、自然と共に生きるまちづくりの方法として、多様な生態系を育てる新たな市民活動として発展の可能性を感じました。これからも地域住民が一緒になって、芦屋の魅力を感じてもらえる取り組みの体制作りがより一層望まれます。

グループC

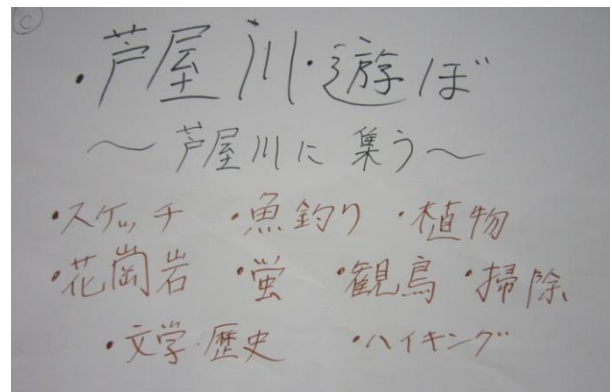
ファシリテーター：守上（芦屋市子ども会連絡協議会）記録：松好（登録ボランティア）
参加者：ヒートン・キャロリン・渡辺（潮見スポンジBT）・八十（芦屋プロジェクト2010）
樋渡（芦屋まちくらぶ）・川崎（チームてとと）・中畷（芦屋市市民参画課）
渡邊（芦屋高校）

芦屋川・遊ぼ ～芦屋川に集う～

スケッチ・魚釣り・植物・花崗岩・蛭観鳥・掃除・文学歴史・ハイキング

【意見】

- ・打出商店街を日本一短い商店街としてアピールしたい
- ・子供のころ遊んだ思い出がたくさんある
- ・芦屋川で釣り大会をしたい
- ・芦屋川にホテルを呼びもどそう
- ・芦屋川上流の植物にももっと関心をもってほしい
- ・芦屋川が景観文化財に指定されたことに誇りをもちたい
- ・車中心ではなく、「ひと」中心の街づくり（開発）をしてほしい
- ・水が流れているところと、水の流れがなく草が生い茂ってしまうところと両極端
- ・芦屋川が景観文化財に指定されたことに驚きとうれしさがある
- ・芦屋川を世界遺産にと聞いて驚いたが、とても関心をもった
- ・さくらまつりもいいが、静かに桜を見たい人もいるので、お互いが楽しめるように工夫してほしい
- ・散歩道の整備とともにトイレの整備もしてほしい



【ファシリテーター講評】

出席者は「芦屋が大好きで芦屋のために何かしたい、またはすでにやっている」人ばかりで、どんどん芦屋に対する思いがあふれ出て、活発に意見交換が続きました。今後の課題「団体のネットワーク化、行事の連携」の促進については、芦屋川沿いに移転される芦屋市民活動センターに期待したいと思います。

グループD

ファシリテーター：海士（あしやNPOセンター） 記録：細川（登録ボランティア）

参加者：山田（阪神再発見クラブ）・松井（阪神再発見クラブ）・堀（自治会連合会）

泉川（HIRO 絵画教室）・福間（九条の会）・西岡（西蔵町自主防災会）

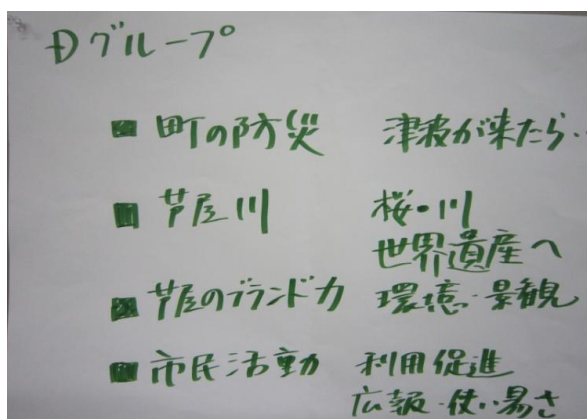
岡部（夢パワー企画）・上田（芦屋高校）

- | | |
|------------|--------------|
| ■ 町の防災 | 津波が来たら… |
| ■ 芦屋川 | 桜・川 世界遺産へ |
| ■ 芦屋のブランド力 | 環境・景観 |
| ■ 市民活動 | 利用促進・広報・使い易さ |



【意見】

- ・芦屋川沿いは海拔が高くて、津波が芦屋川を上るので川岸の近くも危ない
- ・自分を守る！自助共助の重要性
- ・遠くへ逃げるより高いところに逃げる
- ・桜並木が歩道になっているため、根っこを踏み歩き、桜が育ちにくい。夙川に負けてしまっている
- ・芦屋は潮風が多く桜が育ちにくい
- ・建物・石・歴史的価値等、世界遺産へのつながりとなれるか
- ・たくさんの人に来てほしいが、ゴミやバーベキューの問題もある
- ・遊興施設がない
- ・芦屋市は買い物や観光をするところが少なく、市外の人を呼びにくい
- ・庭園都市芦屋のブランド力（美しい自然やよい環境）を大切にしていく
- ・市民活動センターが川沿いに移転。カフェなど付加価値をつけて、市民が集まりやすい広場的存在になればいい
- ・茶菓があれば人は集まる。使い易さも大切



ファシリテーター講評

年齢・性別・活動分野・地域などバランスのいい参加者構成でした。まず防災の視点での芦屋川の話からスタートし、安全について、再認識しました。文化財や美術館など、市民の手で芦屋の歴史・文化を継承することは、分野は違っても共通の目的だと言えるでしょう。移転後のあしや市民活動センターが、市民のひろばの機能を持つ人が集う拠点であってほしいとの希望が出ました。顔を合わせて、意見交換することにより、お互いの活動が広がり深まることにつながると実感しました。

グループE

ファシリテーター：宮平（芦屋市社会福祉協議会） 記録：木村（登録ボランティア）

参加者：大塚（日本宇宙少年団）・安生（芦屋市国際交流協会）・山崎（芦屋プロジェクト2010）
寺田（芦屋市成人式企画チーム）・西田・森田・清木・福田（芦屋高校）

“もっと遊べる芦屋川”

芦屋川ほとりの友愛と福祉の絆（高齢者用）

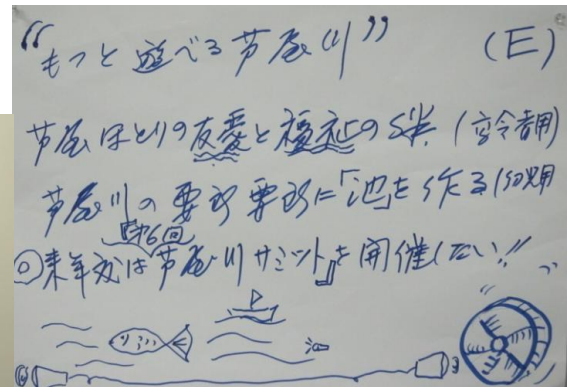
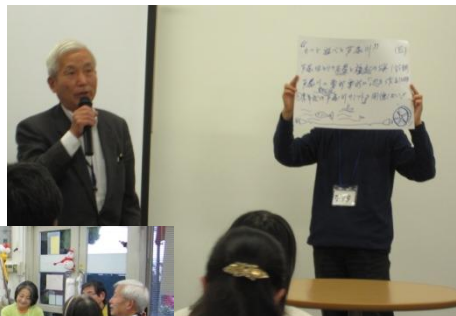
芦屋川の要所要所に「池」を作る（幼児用）

来年度は『第6回市民活動フェスタで芦屋川サミット』を開催したい!!

- ・ 上流から下流まで糸電話で話ができるか
- ・ LEDを上流から流してどこまで行くか
- ・ 芦屋川の魚の仮装パレード
- ・ 笹舟を浮かべる

【意見】

- ・ 改めて芦屋の環境の良さに気付いた
- ・ 芦屋川沿いの景観と六甲山を一緒に眺めた景色の素晴らしさ
- ・ 危険といって遠ざけず、もっと子どもたちを川で遊ばせるようにしたい
- ・ 昔はよく芦屋川で遊んだ
- ・ 川沿いに連続して歩ける道があるといい（ゲリラ豪雨の問題もある）
- ・ 阪急バスのバス停等もあり、川沿いをゆっくり歩ける道がない
- ・ 遊興施設がないために、若者が遊ぶところがない
- ・ 古い文化を残しつつ、より便利にする方法を考える
- ・ 舗装せずに地道を残す方法を考えていく



ファシリテーター講評

芦屋在住、在勤、在学歴はさまざまだけど、「芦屋川が好き」という気持ちはみな同じ。在住歴が長い方からの、昔遊びの話で盛り上がった後は、芦屋川を楽しむためのアイデアがどんどん出てきました。ただの広場だと、周辺に住む人だけのものになりがちだけれど、市内を南北に流れる川だからこそ、住んでいる地域にかかわらず、みんなで考えることができるんだと感じました。